

最期の迎え方を選べる社会へ

生きる権利とは、誰もが自分の人生を自らの意思で生きる権利であり、その権利は、人生の最期を選ぶ自由についても言えます。世界では今、医療の発展や倫理観の変化とともに、延命措置の選択、自死の是非、安楽死の合法化など、多様な価値観が重んじられ、各国それぞれの発展を経てさまざまな制度が作られてきています。こうした中で、尊厳死や安楽死をめぐる議論は、「命の価値とは何か」「誰が死を決定する権利を持つのか」「命は誰のものか」といった根本的な問いを私たちに投げかけます。そしてこの尊厳死と安楽死の

間には、法的・倫理的・宗教的な「はざま」が存在し、その「はざま」には、人間の生と死の尊厳、自己決定権、医療の役割といった多くの論点が交差します。

現代の多様な価値観のもとでは、単に生命を維持することが幸福につながるわけではありません。最期の迎え方を個人が決定できる社会こそ、真に「生きる権利」が保証された社会と言えるのではないのでしょうか。来年11月に「尊厳死協会世界連盟 東京大会」を開催するにあたり、改めてこの根源的な問いを議題にあげ、考えを深めていきたいと思います。

第14回 日本リビングウィル研究会

テーマ

尊厳死と安楽死のはざま

日時

2025年12月13日(土) 午後1時～4時半
(オンライン同時開催)

場所

東京大学 伊藤謝恩ホール (文京区本郷7-3-1)

参加費

無料

申し込み

現地参加の予約は不要ですが、オンライン参加は、協会ホームページからお申し込みください。

講師 (敬称略)

松田 純 (静岡大学特任教授・名誉教授)

個人が死の迎え方を選ぶことは是か、ACPでなぜ家族の同意を必要とするのか、尊厳死・安楽死をどう考えるか、など。

三浦靖彦 (医師、岩手保健医療大学教授)

生きる権利を語るには生命の長さだけでなく生命の質も考慮されるべき、苦しみながら生きなければいけない場合、生命は誰のものになるのか、など。

コーディネーター

満岡 聡 (医師、満岡内科クリニック理事長、日本尊厳死協会理事)

究極の現場から、VSED (Voluntary Stopping Eating and Drinking) という選択など。



■ 開催についての最新情報は
協会ホームページでご確認ください。

<https://songenshi-kyokai.or.jp/>